

3班：「データ収集体制の整備 ～評価を受けての改善に向けて～」

○藤原将人（立命館大学）、江崎浩（佐賀大学）、瀧山敦（昭和大学）、含本真希（三重大学）、福谷樹幸（大阪市立大学）、松岡尚志（創価大学）

1. 議論結果の概要

(1) メンバーの属性と「個別課題」

①メンバーの属性

国立大学 総務・企画系職員 係長1人、チーム員1人

公立大学 総務・企画系職員 係長1人

私立大学 学事系職員 副課長1人、課長補佐1人

②個別課題

- ・認証評価の重要性（意義・意図等）についてデータを所持している各部局担当者に如何に理解してもらい、的確なデータを迅速に収集することができるか。
- ・データカタログの作成方法（どこまで拘って作成するか。）
- ・学生のプライバシーを含むデータの取り扱いに関してガイドライン作成等が必要か。
- ・調査・分析・評価設計をする際の問題点としてどのようなデータが指標となるか。
- ・大学評価とIR室が独立しており、有機的な連携がなされていない。
- ・大学評価（主に学習成果の把握）に有効なデータの収集、分析とはいかなるものか。
- ・データの所在を適切に把握するにはどうすべきか。
- ・データの収集を効率よく行うために、どのようにして執行部や各部局事務担当者に評価業務についての理解を得て、協力体制を構築していくか。
- ・評価を課題の抽出の段階で終わらせずに、いかに改善まで結びつけるか。
- ・評価担当者、部局担当者双方の不満を減らし、評価担当者と部局担当者が良好な関係を築くことはできないか。

(2) ポスター作成の作業の流れ

メンバーから、一人一人「個別課題」を中心に説明し、それぞれの課題の中から共通する問題を詰めていく過程をとった。

具体的には、先ずメンバーから、日常の業務実践レベルで当面しているデータの収集・所在把握、定量データによる点検・評価活動、データに関する担当理事と事務組織間の意思疎通、調査分析項目の設定方法、IR部門と評価部門との連携、IRに関する部門間の役割分担、データ収集の目的や大学評価の意義の共有などに関わる課題、評価が改善につながらないという問題があげられた。

次に、それらの課題について考えられる原因や解決策について付箋に記し、グループ内で共有して意見交換を行った。そしてグループ内で共通する課題として「データ収集」と「評価を改善につなげる」ことが考えられることから、これらをテーマとしてポスターを作成することを決定した。ポスター作成にあたっては、「データ収集」に関わる諸課題と解決策に焦点を合わせたうえ

で、それらを改善に結びつけるということを基本的な考え方とした。

（3）ポスターの説明

ポスターで設定したテーマは「データ収集体制の整備～評価を受けての改善に向けて～」である。

先ずポスターでは「データ収集」に関わる諸課題として、①「データの所在」「データの重複」、②「データ取り扱いのガイドライン」の策定、③「学内の協力体制」の整備といった課題を項目として置き、その下にさらに具体的な課題をあげた。

その上で、①「データの所在」「データの重複」に区分したデータの所在把握のためのデータカタログ作成の必要性とその困難さ、評価担当者と部局担当者の連携の必要、収集データの整理といった課題に関しては、データの一元管理の実施や、データカタログ作成、データ収集の実施内容の記録（データ内容、調査名、部局名、定義、時期等）等の対応を考えた。②「データ取り扱いのガイドライン」の策定といった課題に関しては、現行の関係規程での対応が可能とまとめた。③「学内の協力体制」の整備に区分したデータ収集における当該データや評価の必要性についての担当部局の理解の促進、データ収集に対する部局担当者の負担軽減といった課題には、各部局関係者を対象に評価室（評価担当教員）が実施する研修会や学長・理事長等を評価やIRの実施体制に組み込む等の対応策を提示している。

最後に、「最終的な目的である評価を受けての本質的な大学の改善に注力できるようデータ収集に注ぐ労力を減らす」ために、データ収集先へのフィードバック、活動設計の基本データの特定、学内のどこに問題があるかを把握する等の諸課題の改善、対応策の実行・実施をつうじて、評価・改善の流れをつくっていく重要性をまとめた。

2. グループ討論を通して感じた評価やIRを改善に活かすためのコツ、感想等

- ・メンバー全員が「学内の協力体制」について課題と感じており、特効薬がない中で、地道な努力の継続が必要であると感じた。
- ・評価結果を活用し、「目に見える改善」を学内に見えるようにすることにより、「学内の協力体制」に好循環をもたらすことができるという視点が参考になった。
- ・「学内の協力体制」を構築するためにも重複した依頼をさける等の配慮が必要となり、そのことにデータカタログが使用できる可能性があるということに気づくことができた。
- ・データ管理に関して過敏であったことに気づいた。データは大学のものであるとの合意形成ができればデータ収集が円滑にできるのではないかと。
- ・データ収集における課題の一つである「学内の協力体制」については、データ収集先へのフィードバック等を行うことにより学内における評価に対する理解を深めることで、さらに学内の協力体制に繋げていくという流れが勉強になった。
- ・評価担当者と部局担当者間の評価作業を円滑に進めるには、部局担当者に評価の意味・意義を理解してもらうための継続的な努力とフィードバックが必要であることを改めて認識できた。

3班

データ収集体制の整備

～評価を受けての
改善に向けて～

